

単元番号	空の詩 三編			
5				
時数	単元を学ぶ目的			
3	作者は、それぞれのテーマについての自身の捉え方を、自身の表現の仕方によって詩に込めます。よって、その表現はともすれば言葉足らずだったり、意味わからんかったりするわけです。 しかし、「意味がわからない」は「自分とまったく異なる捉え方・表現の仕方」の結果であるかもしれません。そこには自分にはないものを取り込むチャンスがあったりもします。そうやって自分の世界を大きく鮮烈に広げる可能性が詩に潜んでいることもあると思います。(筆者と自分の隔たりが大きすぎて、結局わからん、で終わる可能性もありますが……笑)			
教科書	単元目標			
62 ↓ 65	○表現技法の種類と効果を理解して、詩を読む。 ○詩の言葉や表現を読み味わい、作者の思いについて考える。			
ワーク 39 ↓ 43				
日付	No.	参考リンク	目標達成に向けた課題	やることリスト(できたものは✓をつける!)
6月30日	1	 中1国語_読み方を学ぼう ⑤詩の表現技法	①全文を通読する ②詩の表現技法を復習する ※重要 ③詩の表現技法のテストに合格する	<input type="checkbox"/> ペア(またはトリオ)で音読をして、サインをもらった。 <input type="checkbox"/> 表現技法のワークシートを終わらせ、他の人に丸付けをしてもらった。 <input type="checkbox"/> テスト用紙を受け取り、見事テストに合格した!
/	2		①『空の詩 三編』を読み解こう	<input type="checkbox"/> 『空の詩 三編』のワークシートを読み、大切だと感じた部分に線を引いたり、メモを書き込んだ。 <input type="checkbox"/> 『空の詩 三編』のワークシートを終わらせ、他の人と丸付けをしあった。
/	3		①『空の詩 三編』の復習をしよう	<input type="checkbox"/> 『空の詩 三編』のワークシートをすべて終わらせ、丸付けをした。 <input type="checkbox"/> 『空の詩 三編』のワークを終わらせて、丸付けをした。 <input type="checkbox"/> 『さまざまな表現技法』のワークを終わらせて、丸付けをした。
<p>直喻(ちょくゆ)…「～のような」「～みたいな」「～のごとし」など、たとえであることを示す言葉を用いた表現。 例) 太陽のように明るい人</p> <p>隠喩(いんゆ)…「～のような」「～みたいな」「～のごとし」のような表現を使わずにある物事を他の物にたとえる表現。 例) ガラスの心(精神的に弱く「心」がこわれやすいことを「ガラス」にたとえている)</p> <p>擬人法…人間でないものの様子を人間にたとえる表現。 例) 空が泣いている(雨が降っている様子を「泣いている」と人間にたとえている)</p> <p>倒置(とうち)法…普通の言い方と言葉の順番をいれかえた表現。 例) こっちに来るよ、車が。(本来なら「車がこっちに来るよ」という語順)</p> <p>対句(ついく)法…対(つい)となる言葉を対応する形で並べることで文章や詩にリズム感を持たせる表現。 例) 青い空と白い雲(「青い」と「白い」、「空」と「雲」がそれぞれ対になっている)</p> <p>反復(はんぷく)法…同じ言葉をくり返し使う表現。その言葉を強く印象付けるという役割がある。 例) 走れ、走れ、とにかく走れ(「走れ」という言葉をくり返している)</p> <p>体言止め…文の最後を体言(名詞のこと。ものの名前など。)で終わりにしている表現方法。その単語を強調させる効果がある。 例) あの日見上げた空(文の最後を空という名詞で終わらせている)</p> <p>省略法…文章を途中で切り、あえて言葉を省く表現技法。 例) 箱を開けるとそこには…。(…の部分が余韻を残すように省略されている。読み手の想像力を刺激し、印象に残る。)</p>				

空の詩 三編

【目標】詩の情景や表現の効果について考えよう。

- 音読を一緒にした人(ペア or トリオ)のサインをもらおう!

一緒に読んだ人のサイン

詩の鑑賞

谷川俊太郎は詩について、「まず難しい、わからないと思ってしまう。でもわからないのに、何かを感じている自分がいる。言葉で言えない音楽のような何か、美しい日本語が生み出した何か、そんな何かを感じる自分を大切にしてほしい。」と言っています。

しかし、「難しい、わからない」というのでは、テストで点はとれません。

「言葉で言えない」何かを言葉で説明させようとするのが国語のテストです。しかも個人的な「感想」ではなく、「感じている」とに客觀性をもたせなくてはいけません。

そのために、次の手順に従って詩を読み味わいましょう!

手順一

詩はまず字を目で追います。字にはひらがな、カタカナ、漢字などがあります。同じ言葉でもひらがなで書かれているのと漢字で書かれているのは、ずいぶん印象が違います。

作者は、意図的に文字を使い分けている場合が多いようです。その言葉はなぜひらがななのか、漢字なのか、そこにどんな作者の意図があるかを探りながら読みましょう。

手順2

作者は、声に出して読んでもらうことを想定して詩をつくる場合があります。そこでまず、声に出して読んでみましょう。詩にはリズムと音(発音)があります。

リズムとして有名なものが定型詩です。破調があつた場合、そこには作者の意図が隠れているはずです。

また同じ音を繰り返す場合もあります。これは押韻おういんです。漢詩などは決まりがあるので、詩で同じ音が繰り返された場合、やはりそこには作者の意図があるはずです。

名前

一年組番

手順3

短歌や俳句と同じように、詩には、短い言葉の中にさまざまな情報がこめられています。

例えば、「ひまわり」という言葉によって読者に暑い日差しや青空などを連想させます。俳句の季語などが、その典型です。

ことば一つ一つにどのようなイメージがこめられているか、そして、ことば相互にはどのような関わりがあるかを分析していく必要があります。

手順4

谷川俊太郎は「音楽のように」と言いましたが、詩を「絵を描くように」イメージしていくことが大切です。

いつ
どこで
だれが（作者が）
何を見たか（何をしたか）

など、詩で描かれた状況を、具体的に説明してみましょう。

作者の目に映ったものは何か、映像で記録するように再現するのです。

例えば「水鳥が湖水をめぐった」とあれば、それはいつか、どんな湖か、水鳥の後には水紋が広がっているはず……というように、テキストの記述から考えられることができるだけ絵を描くように具体的に想像していくのです。

テキストの記述に反しない限り、個人的な想像が入ることもあると思います。それは解釈の自由にあたりますが、テストの解答に含めてはいけません。

手順5

最も大切な内容は「作者は何に感動したか」です。

手順4までで明らかになつてくると思いますが、更に絞り込むために、表現技法をチェックします。

なぜなら表現技法とは、作者が目立たせたいところに用いるものであり、従つて表現技法が用いられている部分は、必ず主題と関わりが強い部分と考えられるからです。

では、これらの手順を通して、実際に教科書に載っている詩を分析してみましょう。

【田標】詩の情景や表現の効果について考えよう。

「雲」という詩は、素朴でのびのびとした感じを読者に与えます。

作者 山村暮鳥は、どんな気持ちでこの詩を作ったのでしょうか。

暮鳥の死後、詩集『雲』が刊行されました。その中に「雲」という詩があります。

教科書に載っている詩は、「雲」の詩の一一番田を抜き出したものです。

山村暮鳥の生涯

山村暮鳥は明治一七(一八八四)年群馬県に生まれました。

家庭の事情で辛い幼少期を過ごし、15歳で小学校の先生になります。とても優秀だったのですね。

更に一生懸命勉強した彼は、英語を教えてくれた宣教師たちに認められて東京の神学校へ進みます。

その後、牧師となつた暮鳥は東北地方の教会に勤めます。

福島県の磐城平の教会では、彼の詩作や生涯に大きく影響を与えた人たちとの出会いがあつたのです。

しかし、の頃から暮鳥は結核を患っていました。そのため、茨城県大洗に引っ越し、療養生活を始めました。この地では、東京から家族を呼び寄せ、大正13(1924)年に亡くなるまでのわずか五年半でしたが、貧しいながらも穏やかな生活ができたようでした。

「雲」の詩は、この大洗に住んでいた時期に作られました。

この詩の「としよりと／＼ども」は、死期の迫った暮鳥と当時十歳の彼の子どもなかも知れません。

「ある時」の部分の、

雲もまた自分のようだ

自分のように

すっかり途方にくれているのだ

という部分は、結核のため死期が迫った暮鳥が、これからどうしたいのかわからずに途方に暮れている姿を表現しているのでしょうか。

運命に逆らえず死に向かって歩む自分の姿を、風にふかれて青空を流れしていく雲に重ねているのかもしれません。

「老子」というのは、紀元前6世紀頃の中国の思想家です。

「うしたい」という気持ちを捨て自然のままに生きる「無為自然」など、自然と調和し争いを避けて生きることを説いてきました。後に神格化されて、孫悟空の活躍する『西遊記』やマンガ『封神演義』では太上老君という名前で登場しています。

暮鳥は、こんなとき=すっかり途方にくれているとき、無為自然を解いた老子に出でてきてほしい、自分も自然のまま生きて（死んで）いきたいと願っているのではないでしょか。

そう考えると、教科書に載っている二番目の詩の解釈もずいぶんと変わりますね。

【『雲』山村暮鳥】理解ワークシート(穴埋め式)

一 詩の理解次の詩の空欄を埋めましょう。

丘の上で

()と

()と

うつとりと雲を

ながめている

おうい雲よ

ゆうゆうと

()にのんきにそうじやないか

どいまでゆくんだ

ずっと()の方までゆくんだ

雲もまた()

自分のように

すっかり()

()にくれてているのだ

あまりにあまりに()

()すぎる

涯のない()

()なので

二 内容の確認

(一)この詩は、どんな気持ちや雰囲気を表していますか。記号に丸を付けましょう。

(ア)悲しく苦しい感じ

(イ)怒っている感じ

(ウ)素朴でのびのびとした感じ

(2)「としよりと／＼ども」は、作者自身と誰のことだと考えられています。
↓死期の迫った作者と()と考えられています。

(3)「雲もまた自分のようだ」とあります、作者はどんな気持ちでこの言葉を書いたのでしよう。

↓死が近づく中で、()

()という気持ちを雲に重ねた。

(4)「おゝ老子よ」とは誰のことですか。

↓()という紀元前の中国の思想家で、「()」とい

う考え方を説いた人物です。

(5)この詩が作られたのは、作者がどこに住んでいた時期ですか。

↓()県()町で療養生活をしていた頃。

(6)山村暮鳥は何の病気を患っていたと書かれていましたか。

↓()

【目標】詩の情景や表現の効果について考えよう。

名前

一年組番

空の遠さが屋根にふれている
——まじわることなく

とても短い詩ですね。

「空の遠さが 屋根に まじわることなく ふれている」という内容が、倒置や省略によつて表現されています。

「ふれている」というのは擬人法です。

作者は「朝、家の屋根と、遠く広がる空」を見てします。

題名が「朝」であり、主語が「空の遠さ」であることから、作者が心を動かされたのは朝の「空の遠さ」です。

「空の遠さ」とは遠くまで広がる空のことです。

ふれている——まじわることなくとあります。

「ふれている」という言葉は、「触っている」ということですから、空が屋根のすぐ上にあるかのように見えることを表現しています。

しかし、実際は、空は屋根からはるか遠いところにあります。

この状態を「まじわることなく」という言葉で表現しているのでしょうか。

屋根と空とは接していないように見えるが、実際には遠い距離があるのです。この距離感を表現したかったのだと思います。

Q、作者は何に感動したか

朝のすがすがしい青空が、屋根のはるか上、はるか遠くまで、どこまでも続いている情景に感動しているのでしょうか。

鑑賞

「遠い空」と「屋根」の対比、「ふれている」「——まじわることなく」の言葉と言葉のつながりによって空の青さ、広さを印象づけ、短い言葉で目の前の屋根から、はるか彼方の空へと続く雄大な情景をえがいています。

Q&A

Q、——まじわることなく、の線(ダッシュ)の意味は何ですか?

A、省略法です。これによって間を持たせ、作者の感動を込めています。

また、間を持たせることによって、倒置法が使われていることを意識させる働きもあります。近くの屋根と遠くの空が、接して見えるけれども、とても広い空間があることを読者にも感じさせるためのダッシュなのではないでしょうか。

Q、季節はいつですか?

A、残念ながら、季節はわかりません。いつの季節、と断定できる記述がないからです。題名が「朝」ですから、日の出の時間よりも後であることは確かです。「空の遠さが屋根にふれている」とあります。ここから澄んだ空気や穏やかな朝の情景が浮かびます。だからといって、春や秋のような穏やかな季節であるとは断定できません。澄み切った空気に冬を感じる場合もあります。

単元テストには、「いつの季節」と断定して答えを出させるものもありますが、なぜそれが言えるのでしょうか。(ただし、定期テストで同じ問題が出題されたら、単元プリント通りに答えておきましょう。)

練習問題

朝 吉田 加南子

空の遠さが屋根にふれている

——まじわることなく

【一】詩の内容について

「空の遠さが屋根にふれている」という表現には、空と屋根がまるで（ ）しているように見える様子が描かれている。

↓【ア：接して イ：重なって ウ：離れて エ：混ざって】

「ふれている」という表現には、空を（ ）化して描いている工夫がある。

↓【ア：抽象 イ：擬人 ウ：説明 エ：対比】

実際には空と屋根の間には（ ）があることを、「まじわることなく」という言葉で表している。

↓【ア：時間 イ：感情 ウ：距離 エ：光】

作者が心を動かされたのは、朝に見た（ ）の様子である。

↓【ア：風 イ：鳥の声 ウ：空の遠さ エ：屋根の形】

【2】表現技法と効果について

「——まじわることなく」の「——(ダッシュ)」には、（ ）法と呼ばれる。という効果がある。

↓【ヒント：省略による余韻や間の効果】

「空の遠さが屋根にふれている」という文は、「空の遠さ」「屋根」「ふれている」が普通の語順とは異なる形で書かれており、これは（ ）法と呼ばれる。

↓【ア：倒置 イ：反復 ウ：比喩 エ：擬音】

〔3〕詩の味わいについて

この詩は、（ ）と言葉のつながりで、空の広がりや美しさを印象づけている。

↓【ア..対比 イ..説明 ウ..感情 エ..物語】

作者は、屋根のすぐ上にあるように見える空が、実は（ ）まで広がっていることに感動している。

→【ヒント：「ど」までも続いている様子】

【4】自由記述

あなたはこの詩を読んで、どのような情景を思い浮かべましたか？また、どの言葉に印象を受けましたか？自由に書いてみましょう。（五十字以上）

3 魚と空

名前

一年組番

【目標】詩の情景や表現の効果について考えよう。

この詩には、魚が空へのまれる、という不思議な場面が描かれています。

これは何を意味しているのでしょうか？

詩の内容を整理してみよう

この詩は、**口語自由詩**です。詩としては珍しく「句点(。)」が打ってあります。句点にしたがって改行すると、次のような文章になります。また、第三連は倒置法ですから、これも通常の文に直してみましょう。

急降下。

鳥が翼で海を打つ。

鳥はもう掴んでいる。

波は海のやぶれ目をさまかしている。

初めてそしてたった一度だけ／魚は海を脱げてる。

空の高みでもうひとつ空へのまれる。

海鳥が、海中の魚をねらって海に潜り、魚が一瞬で捕まって空の彼方へ飛び去つていった様子が生き生きと描かれていますね。最後の行以外は、とても**写実的な表現**です。

※写実的とは

「写実的」は、物事をありのままに描写する様子を表す言葉です。現実をそのまま捉え、誇張や省略をせずに表現する傾向を指します。

「もう一つの空」とは何か？

では最後の「空の高みでもう一つの空へのまれる」とは、どういふことでしょうか。ポイントは「もう一つの空」とは何か、といふことでしょう。

小6の教科書の宮澤賢治作「やまなし」の話は、みなさんご存じだと思います。この作品の最初の「クランポン」が出てくる場面で描かれていたのは、食物連鎖の話です。法華経に傾倒し菜食主義者だった作者は、クランポン（プランクトン？）が魚に食べられ、魚がかわせみに食べられてしまう…その哀しさ、恐ろしさをカニの兄弟の目を通して描こうとしていたのではないかと思います。

一方、この詩の作者は、ただ魚が鳥に連れて行かれた、ということではなく、命の鎖としての食物連鎖の風景を描きたかったのでしょうか。

Q、「なぜ「魚(うお)と空」か

「魚」は「さかな」と「うお」の二通りの読み方があります。この詩は「うお」と読ませています。なぜ「さかな」とは読まないのでしょうか。

A、

「うお」とは、水中をすみかとしている生き物のことを言います。一方「さかな」は、食べものとしての「うお」です。「うお」という言い方はたいへん古く、万葉集の時代から水の中の生き物を指すことばとして使われてきました。一方「さかな」は「酒菜(さかな)」と書いて、お酒のおつまみを意味していました。ですから、奈良時代から室町時代にかけて「さかな」と言うと、「塩」「スモモ」「味噌」などを指しました。そして江戸時代以降、酒の肴(さかな)に魚肉が多く使われたため、魚肉を「さかな」と呼ぶようになつたのです。ちなみに、その酒菜(さかな)のうち、魚や肉のような動物性食品を「真菜(まな)」と呼び、野菜のような植物性食品を「疎菜(そな)」と呼んでいました。そして真菜を調理する板を「真菜板(まないた)」と呼ぶよくなつたということです。

ですから、故事成語の「水を得た魚」は「水を得たウオ」と読むのが正しいのです。

もし作者が、魚が鳥の餌になつたことを表現しようとしたのだとしたら「サカナ」と読んでもよいと思います。しかしこの詩の題名は「空と魚」です。

魚は「海を抜けで」で、「空の高みでもう一つの空にのまれ」ていきます。
魚は更に高い次元、あるいは次の命となつて旅立つていった詩なのですから、ここは永遠の命を暗示できるように「ウオ」と読ませたかったのではないかと思います。

あなたは、「空の高み」にある「もう一つの空」とは、どんなところだと思いますか？

練習問題

【一】詩の内容を整理して、空欄を埋めよう。

この詩は、海鳥が急降下して（ ）を捕らえる場面から始まります。

鳥は翼で（ ）を打ち、魚を捕まえ、空へと飛び立ちます。
魚は、（ ）を抜け出て、

空の高みでもう一つの空に（ ）ます。

二 技法を見つけよう

次の技法が使われています。あてはまる言葉を選んで、記号を書こう。

ア：倒置法 イ：擬人法 ウ：写実的表現

- （ ）「魚は 海を脱げでる。初めて そして たつた一度だけ。」
- （ ）「波は 海のやぶれ目を ごまかしている。」
- （ ）魚が空へとのまれる様子は、現実の風景をリアルに描いた表現です。

三 言葉の意味を考えて、空欄を埋めよう。

この詩の題名「魚と空」は、「ウオとソラ」と読みます。

- （ ）での「魚（ウオ）」は、（ ）の中にすむ生きものとしての魚のこと
- 指します。一方、「サカナ」は、（ ）としての魚のことです。

四 読解して、空欄を埋めよう。

- 「空の高みでもう一つの空」とは、単に現実の空を指すのではなく、魚が命を終え、（ ）のような場所への旅立ちを表しているとも読めます。
これは「食物連鎖」や「命のつながり」といった（ ）の意味も感じさせます。